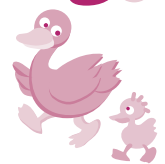


挨拶の輪を広げる



本校は「挨拶」の指導に力を入れています。毎年、学校内での挨拶はかなりできるようになりましたが、地域での挨拶は十分ではありません。小学生は、日頃生活を共にしている人には挨拶しますが、ふれ合いが少ない人に対しては疎かになりがちです。小学生にとって「自分と関係が深い人」は、家族や友達、先生などに限られてしまうので、大人であれば関わりが浅くても、「挨拶は人間関係の潤滑油」だと考えて頭を下げたり声を掛けたりするのですが、子どもにはそうした発想はあまりないようです。

ところで、本校の登下校は「ふれあい隊」や「ふれあいサポーター」など、地域の多くのかた

がたによつて安全が守られています。前述のような子どもたちの特性はあ

るにしても、日頃お世話になっているかたがたであることを認識して、明るい挨拶ができる子どもたちにしていきたいと考えています。

このことに関しては、昨年度嬉しい試みがありました。六年生が自主的に十四人の「あいさつ隊」を結成して、各地域で挨拶運動を行ったのです。「あいさつ隊」は、通学路の安全を守つてくださる地域のかたがたに挨拶できる学校にしようと、自分たちが見本を示して運動を展開しました。お陰で、通学路に立つてくださるかたがたに挨拶する子が増えていったのです。

この運動の推進役になつたのは、羽島郡・町教育委員会主催の「子どもサミット」に出席した二人の六年生です。サミットでの課題、「地域との関わりをつくらう」を受け、「何ができるだろうか」と考えてこの運動を生み出しました。

この運動によつて、子どもたちの気持ちが変わってきたようです。



挨拶隊トミダヤ前

「知らない人だから挨拶しにくいなあ」「挨拶しなくてもいいや」と思っていた子も、実際に「おはようございます」の声を聞いてみると「気分がよくなる」「心が通じ合う感じがした」というのです。

子どもたちには、「人間関係が深いから挨拶が交わせる」という姿に留まるのではなく、「思い切つて挨拶すると心が通い合い、関係を深めることができる」という快い体験を重ねていつて欲しいと願っています。

松枝校区のかたがたは子どもたちのために毎日挨拶の声を掛けてくださっています。本当にありがたいことです。学校も、「勇気を出して挨拶のボールを投げる」「投げられた挨拶のボールは必ず投げ返す」ことを基本にして、今年度も「あいさつ隊」の運動を展開していきます。

松枝小学校

校長 柏木孝彦

町老連余技作品展

町老人クラブ連合会主催の「老人余技作品展」が5月29日から31日までの3日間にわたり、福祉会館で開催されました。会場には、約240点余りの日本画をはじめ水彩画・油絵・写真・盆栽・ちぎり絵・手芸などの力作が展示され、訪れるかたがたの目を楽しませました。



交通事故防止の宣言採択

交通安全婦人連絡協議会総会

町交通安全婦人連絡協議会の総会が六月二十日、役場で開催され、町婦人会、小・中学校PTAのかたがた約三十人が出席し、事業報告と事業計画が承認された後、「交通事故に対する自覚と認識を深め、明るい家庭、住みよい町づくり」を目指す宣言が採択されました。その後、岐阜羽島警察署の田口交通課長より交通事故情勢の説明があり、交通事故防止の協力の呼びかけがありました。

